

ばらんす

第31号

編集発行

大田原市総合政策部
政策推進課 市民協働係
〒324-8641
大田原市本町1丁目4番1号
☎ 0287-23-1389
FAX 0287-23-8748

一人ひとりが輝く大田原のつどい2011 ～安全・安心・元気!みんなで発信、大田原!～

9月11日(日)大田原市総合文化会館において、大田原市・大田原市女性団体連絡協議会の主催により(つどい2011)が行われました。内容は講演&講談で弁護士渥美雅子・剛治夫妻によって展開されました。幕間に市内男女共同参画ぐるーぷクレソンの出前講座もありました。



渥美 雅子氏による講演

講演

《講師》 弁護士 渥美雅子氏

《演題》 **自由で豊かなパートナーシップ**
—ひとりひとりが輝く未来へ向けて—

- ◎ 21世紀、女性を取りまく法制度は変わりました。法は平等ですが現実はまだまだです…。
- ◎ ワークライフバランスを願って未来へ投資しましょう。(子育て、孫育て…)
- ◎ 人間絶望を語らず希望を語りましょう。一步踏み出して…。

講談

《アマチュア講談師》 あつみうおうさおう あつみやばい
渥美右桜左桜・渥美矢梅

《演目》 **山之内家の妻と夫**

◎山之内家のヒストリーを軸に、かの有名なエピソード鏡栗毛の話を絡ませ、離婚・財産分与・婚外子の扱いを語りました。(夫婦講談)

◇会場から夫妻への質問事項から…「渥美家の夫婦のあり方あれこれ」

- 家庭の家事分担は やれる人がやれるときに責任を持ってやる。
- 夫婦のあり方をどう受け止めているか
共通趣味を持ち、お互いを思いやりながら生活している。
- 未来へ向けての夫婦のあり方は
夫婦で共通のことを持ち、共通体験する。話題が増え、心豊かになる。



出前講座

ぐるーぷクレソン

男女共同参画コント

(主な紹介はP4へ!!)



参加者の感想

- ◎ 男女共同参画は、強制すべきものではない。お互いが作り上げていくことだ。
- ◎ 女性が働くには、家族の協力が必要。
- ◎ 男女の給料格差は現存している。
- ◎ 年金分割制度は、離婚の目安になることもある。
- ◎ おかしいと思ったら、一歩ふみだしましょう!
「絶望を語ってはいけない。希望を語りなさい」
この2つの言葉が印象に残った。
震災時、大切な言葉だと思った。

熟年おじさんがはじめた喫茶店

——世代間交流喫茶「いつてみつけ」——

世代間交流喫茶「いつてみつけ」は、市社会福祉協議会と国際医療福祉大学が共催した「学生と市民で地域福祉を考える講座」で、テーブルを共にした4人の熟年おじさんと、3人の女子学生との議論のなかで発案された。「地元のおじさんたちと気軽に話し合ったのは初めてです」「農家でも、集落で一緒に作業する事も無くなり、皆が集つのは葬式ぐらい。世代を超えて話し合う機会はまずない」

こんな話題から問題意識が共有され企画案が出来た。しかし、実現までには種々の困難を乗り越え、半年の準備期間を経た。



後列、4人の熟年おじさん
磯昭子さん(オカリナ演奏)、青空とんびさん(マジック)

商工会議所を初め多くの関係機関の協力を得て、旧荒町商店街一角、bspカフェ(学生喫茶)の空き時間(火、木、土曜日、午前10時から午後4時)を利用して開店した。

代表の木地洋次さん、最年長の藤田三夫さんは共にシルバー大学OBで、地域活動、ボランティアなどを学んでおられた。メッセンジャーの貫寿夫さんは、中越地震など災害ボランティアの経験者である。唯一の現役で農業経営の



あっ電気が点いた！

墨谷富雄さんは蛭田ほほえみセンターの運営委員をされている。食品衛生管理者の免許も取得し、エプロン姿でコーヒーを入れ、お茶をサービスされる姿は堂に入っている。

開店から半年を経た本年6月には東日本大震災チャリティイベント「マジック&オカリナ」を行った。小学生の孫とおじいちゃん、世代を超え約50名が店内いっばいに集った。子どもたちが目を輝かせたマジックの青空とんびさん、懐かしい唱歌を優しい音色のオカリナで演奏された磯昭子さん、共に常連客である。

開店から1周年を迎えた熟年おじさんたちは「世代を超えた出会い、絆が高齢化時代の優しさの支えになる」と同世代に、働く(傍を楽にする)喜びをエールとして送られた。

ーズ 軍

や4人が立ち上げた世代
打が、開店して今月13日
熱き熟年戦士の奮闘ぶり
ルを送る。
若い力を発揮し、心強
た国際医療福祉大
ンティアの活
する。



子どもたちもたくさん来たよ！

常連客の声

隅の席で編み物をされる3人のご婦人、皆さん猫のプローチを付けておられた。杉江イク子さん、辻中弥生さんと交流喫茶サポーターの田辺節子さん。皆さん、ここで出会ったお友だち、ここだけのお友だちかも……。遠慮のいらぬ別世界、ここで、いろんな事を教わったり、教えてあげたり素晴らしい出会いの場所ですよ——。と優しい笑顔が美しい。

毎日立ち寄る寺本靖治さん、脳梗塞のリハビリを兼ねた散歩コースと言われる。ここで、久しぶりの友人、新しい友人と幅広い交流ができたそうである。旧荒町商店街、色々な発見があって面白い。歩くことが楽しくなり医師から誉められていますと笑われた。

60代から70代の熟年おや
間交流喫茶「いってみっ」
で満1年を迎えた。その
を紹介し同世代にエー
また、3・11大震災で
い姿を見せて頂い
学の学生ボラ
動を紹介

「若い力を ありがとう」

国際医療福祉大学生 災害ボランティア活動

3・11東日本大震災では、国際医療福祉大学も大きな被害を被った。3日後には、学生による災害時ボランティアプロジェクトチームが立ちあがり、登録者数は607名となった。

活動は、大田原市、那須塩原市、那須町の災害ボランティアセンターで、高齢者世帯の破損した瓦や塀等の撤去、屋内外片づけ、避難所での配膳や子供たちの遊び相手を行った。

また、募金(785,758円)、物資の提供、病院での



片付け等、宮城県岩沼市(7回学生、教職員188名)や大田原市社協主催・福島県いわき市(5回39名)への被災地支援など広域に渡り活動してきた。
その中で活動した4名の大学生に話を聞いた。

◎沼崎翔平さん(医療福祉学科 4年)は「自分でもできることから始

めようと活動に参加しました。高齢者世帯の大谷石塀の撤去を行い、思ったより重く疲れましたが、感謝されました」

◎早川和穂さん(作業療法士学科 4年)は「ヘルメット・手袋など用具の貸し出し等や病院で患者さんの案内や荷物の片付けなどをしました。少しでもお役に立てて良かったです」

◎杉内伸也さん(言語聴覚学科 3年)は「市民の方とも一緒に活動し、ご自身が大変なのに自分の仕事をしながら、一方でボランティアを行う姿に感動しました」(杉内さんは南相馬市出身で、家は被災したそう)

◎相馬博子さん(作業療法学科 2年)は「宮城県岩沼市に行き、津波の被害にあった養鶏場で泥出しをし、体力的にきつかったです。被災者の方にお茶やお菓子を届けていただき、大変なのに、そんな気遣いを受け感謝しました」

災害ボランティアで屋内外を片付けてもらった高齢者の多くの方から、「若い方が来てくれてうれしいです。ありがとうです。本当に助かりました」と感謝の声が寄せられた。大田原市に国際医療福祉大学があつて良かった。



男女共同参画講座 ～地域とともに豊かに生きる～



◆第1回講座は、9月15日(木)市総合文化会館において、宇都宮大学教育学部の陣内雄次教授による、「地域で生きる、地域と生きる 一まちづくりの視点から」をテーマに学習が始まった。まちづくりは、市民が担い手となって、地域で暮らすことの価値を、みんなが共有していくことが必要…。地域の現状や、いくつかの事例また民話など引用しながら、まちづくりの必要性を分かりやすく話された。

◆第2回講座は、10月11日(火)「スムーズなコミュニケーション術～言いたいことキチンと伝えられますか～」をテーマに、アサーティブジャパン認定講師沢部ひとみ氏が話された。アサーティブ(相手の権利を侵害することなく、誠実に、率直に、対等に、自分の気持ちや要求を表現する)であれば何ができるかという自己診断から、自己紹介、頼む断るゲームなど、受講生はワークショップに積極的に参加し、終始なごやかな講座となった。



《大田原市男女共同参画推進グループ》 ぐるーぷクレソンです!!

3月11日(金)、ぐるーぷクレソンはパーティ(男女共同参画推進員研修会場)にいた。

パーティにおいて、関係5団体の活動発表が行われつつあった。ぐるーぷクレソンは4番目発表で待機中、午後2時46分地震!避難!。そのまま解散となり帰路についた。余震甚だしく車は揺れ信号は消え屋根瓦・石塀の損壊を車窓より見た。携帯はつながらず、事態を把握することは出来なかった。東日本大震災発生であった。

あれから3か月余り、6月26日(日)とちぎ県民のつどいが、パーティにおいて開催。男女共同参画推進グループの活動発表があり、ぐるーぷクレソンも参加した。

6団体による発表内容は、男女共同参画をめざすことに視点を置き発表手法は紙芝居・DVD・寸劇・コントなど多彩であった。

クレソンは、川柳コント・家庭のエピソード「血洗い手伝うよ」を発表、特に「血洗い手伝うよ」は、夫のひとつから妻3人それぞれの受け答えを演じ、夫婦像を考え合うことで観客の共感を呼んだ。

ぐるーぷクレソンは、結成以来5年を経て会員28名で、男女共同参画の啓発意識について出前活動を続けている。

出前講座は大人向けであったが、男女共同参画の未来を考え、幼児から少・中学生を含めたプログラムを企画中である。性別にかかわらず、個性や能力が十分発揮でき、お互いに認め合える社会の実現を目指したい。



お知らせ

講演会&海外研修報告会

平成24年1月28日(土)午後1時~3時45分/大田原市総合文化会館ホール

【講演会】「セーラが町にやってきた~挑戦!伝統の町の再生へ~」

講師 / 株式会社 樹一市村酒造場 代表取締役 セーラ・マリ・カミングス 氏

欧米人初の利酒師にして、長野県上高井郡小布施町の町おこしの立役者。250年の伝統を持つが経営難に陥っていた造り酒屋を見事再建、日本人よりも日本人らしいと言われるアメリカ人。日経ウーマン誌が選ぶ「ウーマン・オブ・ザ・イヤー2002」受賞。

セーラが語る愛すべき日本ならではの底力を聴いてみよう、男も女もみんな愛する町だから。

【海外研修報告会】

「Lien(絆)…チャンスを新たな架橋として未来へ繋げよう ~3.11の想いを胸に~」

10回目を迎える今年の訪問国は、スウェーデン、フランスの2国。

10人の派遣団員による報告です。

問合せ先:市民協働係0287-23-1389



女性に対する暴力をなくす運動

11月12日~11月25日の2週間

《暴力で悩んでいる方へ…ひとりで悩まないで…相談してください。》

大田原市 こども課/0287-23-8932 (月)~(金) 8:30~17:15

大田原警察署/0287-24-0110 24時間対応

認定NPO法人 ウィメンズハウスとちぎ/028-621-9993(月)~(金) 10:00~16:00

とちぎ男女共同参画センター 相談ルーム(女性のための電話相談)/028-665-8720

① 一般相談 (月)~(日) 9:00~16:00

② 配偶者暴力相談 (月)~(金) 9:00~20:00 (土)・(日) 9:00~16:00

男性のための 電話相談

男性の相談員が相談をお受けします。

毎月第1・第3水曜日
17:30~19:30

028-665-8724

編集 後記

東日本大震災、原発事故がおきたあの日から、人を思いやり、自分に何が出来るか考え、行動した8か月が過ぎようとしています。被災地の復興には、まだまだ時間がかかります。これからも、その思いを絶やさず、応援していきたいものです。(廣田)

編集委員

(五十音順)

磯 由美子 栗原 敏子 佐藤 長子
鈴木 成美 谷辺 範夫 廣田 和子